

## 江戸名所・品川

しながわ ごてん  
品川御殿

御殿山の名称は、江戸時代\*前期に品川御殿と呼ばれる将軍の館が設けられたことに由来します。御殿は、将軍の鷹狩りなどの際の休泊所とされており、また軍事的な防御拠点でもあったと想定されています。品川御殿には、三代将軍徳川家光がたびたび訪れ、政治に関わる重要な会議や茶会を催していましたが、1702年に焼失したのちは再建されませんでした。

※江戸時代：17世紀初期から1868年の明治維新まで続いた時代。江戸（現在の東京都）に幕府が置かれたためこの名称で呼ばれます。

## 花見の名所

品川御殿のあった御殿山は、飛鳥山（東京都北区）や隅田川とともに八代将軍徳川吉宗が庶民に開放し、やがて桜の名所として整備されていきました。人々の憩いの場となった御殿山は、賑わいを見せるとともに、歌川広重や葛飾北斎といった浮世絵師に画題として取り上げられ、江戸名所の一つになりました。また、寺社を中心に品川区南部の大井から池上本門寺（東京都大田区）付近まで桜が植えられ、将軍から庶民まで多くの人々が足を運びました。

おさいさかなはちかうら  
御菜肴八ヶ浦

品川地域には、品川浦（南品川 りょうしまち 獵師町）と大井御林浦（御林 おはやし 獵師町）の二つの漁村が形成され、江戸城へ鮮魚を献上する8つの漁村（御菜肴八ヶ浦）の一部として発展しました。なかでも品川浦は、金杉浦と本芝浦（いずれも現在の東京都港区）とともに中心的役割を果たしていました。なお、8つの漁村の内訳は、金杉・本芝（いずれも現在の東京都港区）・品川・大井御林（いずれも現在の東京都品川区）・羽田（現在の東京都大田区）・生麦・新宿・神奈川（いずれも現在の神奈川県横浜市）です。

## 寛政のくじら

寛政10年（1798）5月、天王洲（現在の東京都品川区東品川）の浅瀬に迷い込んだ大鯨を漁師らが捕まえました。長さ16m余り、高さ2mもあり、かわら版\*も出版されて多くの見物人で賑わったとされています。鯨は浜御殿（現、浜離宮恩賜庭園）まで運ばれて11代将軍徳川家斉も見物しました。その後、鯨は洲

崎弁天さきべんてん（現、利田神社）の境内に埋葬され、鯨を供養する碑が建立されました。

※かわら版：江戸時代の号外新聞のようなもの。

1\_03\_01



なんぼ  
南浦桜案内

とかくさいけいざん  
杜格斎景山

文化年間（1804年～1818年）成立か大井村の役人で、俳人でもあった大野おおの五蔵ごぞう惟図ただのり（俳号：杜格斎景山）による、品川・大井周辺の桜の名所案内。北は御殿山から南は池上本門寺（東京都大田区）までを記し、俳句と花見の時期を記しています。松尾芭蕉まつおばしろう※ゆかりの泊はく船寺せんじに奉納されました。

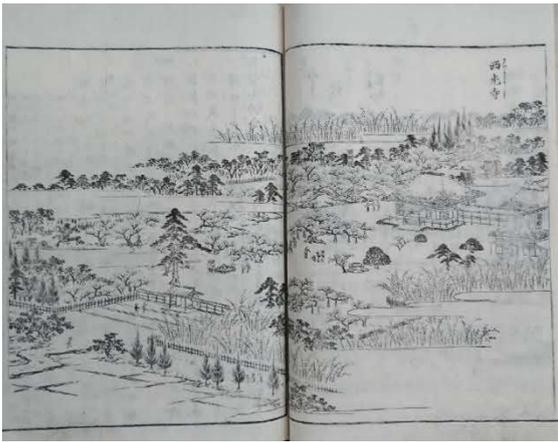
※松尾芭蕉：「奥の細道」を記した江戸時代の著名な俳人。

1\_03\_02



ゆかた  
浴衣（復元）

19世紀には、江戸の名所や名物を題材にした浴衣が作られました。この浴衣もその一つで、品川などでとれた魚介類をモチーフにしています。模様が裏表にぴったり重なる「長板ながいたちゅうがた中型」と呼ばれる手法で染められています。

<p>1_03_03</p> 	<p><b>品川御殿山花見（複製）</b></p> <p><small>かつしかほくさい</small> 葛飾北斎画</p> <p>文政～天保初期頃（1818～1830 年代） 原資料：北斎館所蔵</p> <p>浮世絵は、役者・美人・力士・風景・花鳥など広く世間の風俗を描いた絵画のことで、<small>えし</small>絵師が手描きで描いた肉筆画と、<small>ほりし すりし</small>絵師・彫師・摺師といった職人たちの共同作業で作られる木版画があります。この浮世絵は肉筆で、御殿山の花見の様子を描いています。</p>
<p>1_03_04</p> 	<p><small>ず え</small>江戸名所図会 <small>さいこうじ</small> 卷二「西光寺」</p> <p><small>さいとうゆきお</small> 斎藤幸雄ほか著、<small>は せ が わ せ っ た ん</small>長谷川雪旦画</p> <p>天保5年（1834）</p> <p>江戸時代後期の挿絵入り名所ガイドブック。西光寺の境内に、本堂前の<small>ちござくら</small>児桜と<small>だいござくら</small>醍醐桜が描かれています。本文では、「境内に古い桜の木が数本あり、桜が満開の時は、この地域で一番の花の名所である」とされています。</p>

1\_03\_05

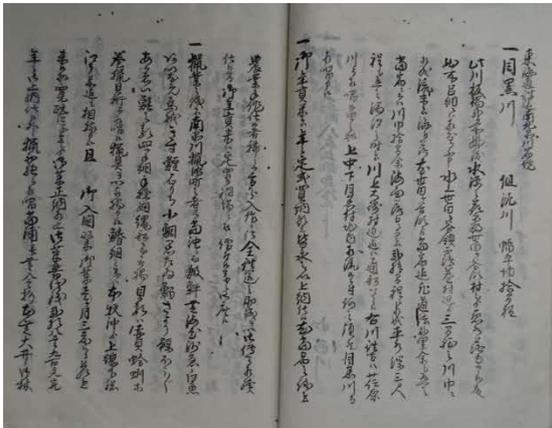


桜の標本「<sup>ふげんぞう</sup>普賢象」

平成 28 年 (2016) 制作

普賢象という種類の桜です。淡い紅色で大きな八重の花で、江戸時代の大井では来福寺<sup>らいふくじ</sup>で花を咲かせていました。これは別の場所で採取した普賢象を、アクリルに封入して標本にしたものです。

1\_04\_06



しゆくかためいさいかきあげちよう  
宿方明細書上帳

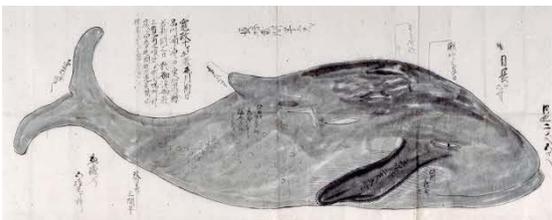
天保 14 年 (1843) 3 月

立正大学所蔵、当館寄託

南品川宿の名主<sup>なぬし</sup>\*を代々務めた利田家<sup>かがた</sup>が所蔵した、品川宿の概要をまとめた帳面。ヒラメ・エビ・イカ・タイなど、南品川<sup>みなみしながわりようしまち</sup>猟師町で獲れる魚介類が記されています。

※名主：村政全般を司った役職。

1\_04\_07



品川沖鯨の図

寛政 10 年 (1798) ごろ成立

品川沖に迷い込んだ鯨の姿を描き、その周りに大きさなどの情報を記入しています。

※現在、この資料は展示していません。